

ひっ迫感一段と強まる

国産針葉樹合板

国産針葉樹合板は盆休み明けからひっ迫感が強まっている。おう盛な出荷と極めて低水準の在庫が続くなか、直需・木建ルートとも現物玉確保に奔走している。国内合板メーカーは原木確保が思うように進まず、人手不足も続くなかでこれ以上の増産は難しく、年内はひっ迫感が続くとの見方が広がっている。こうしたなか、各合板メーカーでは原木高などを背景に12ミ³厚3×6判の建て値を9月から1150円（1次問屋着、枚）に引き上げる方針を打ち出している。

メーカー、12ミ³厚3×6判を1150円に値上げ

7月も出荷量が生産量を上回り、針葉樹合板の在庫量は9万600立方尺（前月比1500立方尺減）と在庫減は収まっていない。8月は盆休みで各合板工場が生産設備の定期メンテナンスを実施したため、1週間程度稼働が停止した。

一方、プレカト会社では、木材製品不足による加工日程の遅れを取り戻すために連休を短縮して稼働を継続する工場もあった。このため、8月も出荷量が生産量を上回り、在庫が一段と減少するところが見られる。しかも、全国的に

国産材丸太への引き合いはおう盛なうえ、連休中の西日本を中心とする大雨により出材量が今後減少するとの見方が広がり、9月以降もひっ迫感は解消しないとの見方が強まった。

既定注文分でも一部で納期遅れが出ている。一部のプレカト会社では、木材製品不足が本格化した4月以降、合板への波及を警戒して在庫を積み増しているが、それでも「他社に販売する余裕はない。融通する場合もウッド集成管柱など自

社で不足する材料との交換でなければ応じられない」（中小プレカト会社）。在庫が少なかったプレカト会社の中には「合板だけは持ち込みでと顧客に伝える会社も出てくる」（商社）など合板不足が受注の足かせになり始めている。木建ルートではさらに深刻で「納期がどんどんずれ込んでおり、割り振りも減り続けている」（問屋）状況で、手待ち在庫が払底している販売店も少なくない。

国内合板メーカーは東西ともフル生産体制を継続しているが、原木不足により生産量を

伸ばしきれていない。これまで西日本と比べて余力のあった東日本でも、丸太が不足する西日本から手当てする動きが出ているうえに集成材メーカーが杉丸太の集材を一段と積極的に進めており、「今

入っている数量以上の丸太を確保するのは困難」（国内合板メーカー）との声上がる。西日本では国産材丸太の集材難は解消する見込みが立っておらず、今月中旬の大雨の影響で林道が被害を受けているため、一段と厳しさを増している。

現在、12ミ³厚3×6判の市中価格は1100円（関東1次問屋着、枚、10ト車メーカー直送）。9月出荷分からの値上げも素早く浸透することは確実視されており、市場では価格よりも現物玉確保最優先の傾向が強い。